

沼津高専 概要

NCT
Outline 2012



沼津高専 概要

- 沼津高専校歌…………… 1
- POLICY …………… 2
 - 教育理念…………… 2
 - 教育目的…………… 2
 - 教育方針…………… 2
 - 学習・教育目標…………… 2
 - 養成すべき人材像…………… 2
 - 学生受入方針…………… 2
 - 各科教育目的…………… 3
 - 教養科…………… 3
 - 機械工学科…………… 3
 - 電気電子工学科…………… 3
 - 電子制御工学科…………… 3
 - 制御情報工学科…………… 3
 - 物質工学科…………… 3
- 沿革…………… 4
- 組織…………… 5
 - 組織図…………… 5
 - 役職員…………… 5
 - 現 員…………… 5
 - 高等専門学校とは…………… 5
 - 高専の位置付け…………… 5
- 特色ある技術者教育…………… 6
- 外部機関による評価…………… 7
- 教養科…………… 8
- 機械工学科…………… 9
- 電気電子工学科…………… 10
- 電子制御工学科…………… 11
- 制御情報工学科…………… 12
- 物質工学科…………… 13
- 専攻科…………… 14
- 学 生…………… 15
 - 定員及び現員…………… 15
 - 入学志願者状況…………… 15
 - 出身地別学生数…………… 15
 - 静岡県内都市別学生数…………… 15
 - 外国人留学生…………… 15
- 学生寮・尚友会館（福利施設）…………… 16
- 図書館…………… 17
- 総合情報センター…………… 17
- 地域共同テクノセンター…………… 18
- 実習工場…………… 18
- 進 路…………… 19
 - 卒業生の編入学状況…………… 19
 - 平成23年度卒業生の進路状況…………… 19
 - 修了生の進学状況…………… 20
 - 平成23年度修了生の進路状況…………… 20
- 事業費概要…………… 21
- 建物配置図…………… 21

校歌

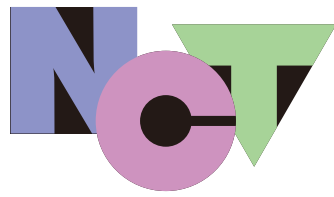
作詞 市川 良輔
作曲 渡辺 浦人

東海に聳えて名あり
ゆるぎなき富士の高嶺よ
仰ぎ見る沼津が丘に
わが心直くゆたけし
日本の工業が呼ぶ
若き日の五つ年今ぞ

新たなる使命に満ちて
科学するみち一すじよ
学び成す礎とわに
わが腕さやけくつよし
日本の工業が待つ
若き日の五つ年今ぞ

天地のただふところに
伸びいそぐ「小林」が樹よ
春秋のいそしみふかく
わが希望さだかに遂げむ
日本の工業興す
若き日の五つ年今ぞ





POLICY

NUMAZU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

— 沼津工業高等専門学校教育理念、教育方針 等 —

●教育理念

**「人柄のよい優秀な技術者となって
世の期待にこたえよ」**

●教育目的

豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業に寄与すること。

●教育方針

- 一、低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
- 一、コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 一、実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- 一、教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

●学習・教育目標

学生が以下の能力、態度、姿勢を身に付けることを目標とする。

- 一、技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
- 一、自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
- 一、工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
- 一、豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
- 一、実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

●養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力ある実践的技術者

●学生受入方針（アドミッションポリシー）

- 一、科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身につけている人
- 一、自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 一、科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 一、他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人



- 所在地 静岡県沼津市大岡3600
- 創立 昭和37年4月1日
- 学科
 - 機械工学科
 - 電気電子工学科
 - 電子制御工学科
 - 制御情報工学科
 - 物質工学科
- 修業年限 5年
- 専攻科
 - 機械・電気システム工学専攻
 - 制御・情報システム工学専攻
 - 応用物質工学専攻
- 修業年限 2年
- 学生定員 1,040名
- 施設
 - 敷地 89,599㎡
 - 建物 35,538㎡

●各科教育目的

●教養科

専門学科の教科を学ぶに必要な基礎学力を身に付けさせ、健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を育成すること。

●機械工学科

機械の開発・設計・製造の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

●電気電子工学科

電気エネルギー・エレクトロニクス・情報通信の開発・設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

●電子制御工学科

電気・機械・情報工学のシステム統合技術の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

●制御情報工学科

コンピュータを応用したシステムの設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

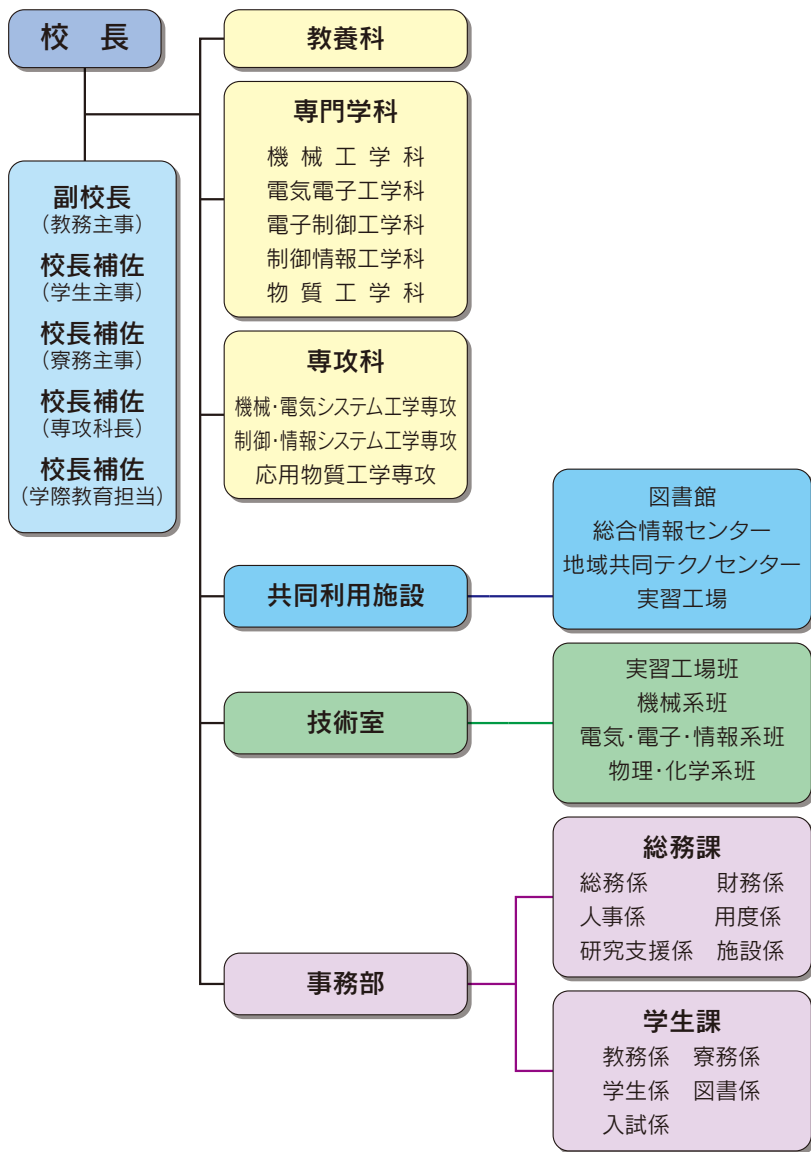
●物質工学科

化学工業・ファインケミカル・食品工業等の生産技術や研究開発の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

- 
- 昭和37.3.29 沼津工業高等専門学校（機械工学科及び電気工学科）設置
4.20 開校式並びに昭和37年度入学式挙行
- 昭和41.4.5 工業化学科設置
- 昭和42.3.20 第1回卒業式挙行
- 昭和45.4.1 男子低学年（1、2年）全寮制開始
- 昭和47.11.1 創立10周年記念式典挙行
- 昭和51.4.1 第4学年への編入学開始
5.8 情報処理教育センター設置
- 昭和57.11.1 創立20周年記念式典挙行
- 昭和60.4.1 女子低学年（1、2年）全寮制開始
- 昭和61.4.1 電子制御工学科設置
- 平成元.4.1 工業化学科が物質工学科に改組
- 平成4.4.1 機械工学科（2学級）が機械工学科（1学級）と制御情報工学科（1学級）に改組
11.11 創立30周年記念式典挙行
- 平成8.4.1 専攻科設置
- 平成11.4.1 電気工学科が電気電子工学科に改組
12.1 新講義棟竣工
- 平成16.3.3 地域共同テクノセンター設置
- 平成16.4.1 独立行政法人国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校へ移行
- 平成16.5.12 日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定
- 平成17.4.1 情報処理教育センターが総合情報センターに改組
- 平成19.4.1 第4学年編入学を第3学年または第4学年編入学に改正
- 平成21.10.21 静岡大学と教育研究交流に関する協定締結
12.1 東京工業大学と教育研究交流に関する協定締結
- 平成23.6.29 静岡医療センターと連携に関する協定締結
7.1 豊橋技術科学大学と教育研究交流に関する協定締結
11.21 沼津市と連携協力に関する協定締結
- 平成24.4.1 混合学級と学際教育の開始

2012年は沼津高専の創立50周年です。
NUMAZU KOSEN 50th Anniversary 1962-2012

●組織図



●役職員

■役職	■氏名
校長	柳下 福藏
副校長（教務主事）	蓮實 文彦
校長補佐（学生主事）	大久保清美
校長補佐（寮務主事）	遠藤 良樹
校長補佐（専攻科長）	遠山 和之
校長補佐（学際教育担当）	押川 達夫
教養科長	西垣 誠一
機械工学科長	小林 隆志
電気電子工学科長	佐藤 憲史
電子制御工学科長	川上 誠
制御情報工学科長	長谷 賢治
物質工学科長	芳野 恭士
図書館長	江間 敏
総合情報センター長	望月 孔二
地域共同テクノセンター長	藤尾三紀夫
実習工場長	小林 隆志
技術室長	西田 友久
事務部長	上原 正宜
総務課長	五条 寿久
学生課長	入吉 修

平成24年4月1日現在

●現員

■区分	■現員
●教育職員	80
校長	1
教授〔内、特任教授2・特命教授1〕	35
准教授	22
講師	13
助教	9
●技術系職員（技術室）	13
●事務系職員	34
合計	127

平成24年4月1日現在

●高等専門学校とは

高等専門学校は、我が国産業の発展と、科学技術教育のより一層の振興を図るために、創設された高等教育機関です。高等専門学校は深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、豊かな教養と専門の工学とを身につけた有為な実践的技術者の育成を使命としており、中学校卒業を入学資格とし、5年制の一貫教育を行っています。

高等専門学校は、職業に直接役立つ実践的な技術の学習を重視し、理論を实际面に生かす能力を持つ人を育成することを旨としており、また、学生と教員の人的接触に重きを置いた特色ある教育を行っています。

専攻科は、工業高等専門学校等の教育における成果と伝統を踏まえ、研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い、もって地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的としています。

なお、日本の学校制度の中での高等専門学校の位置付けは下図のとおりです。

●高専の位置付け



特色ある技術者教育

Features of Engineering Education

平成24年度入学生より、医療・福祉、環境・エネルギー、新機能材料を重視する近年の産業構造の変化に対応できるエンジニアを育成していくために、低学年においては、従来からの専門導入基礎実験に加えて他分野の基礎実験実習を体験できるように混合学級編成とし、高学年においては所属学科の基礎・応用科目と学際分野の科目を受講できるように教育課程を改定し、今後も優秀な卒業生を社会に輩出することを目指します。



●学際分野受講 3～5年生

3～5年生は所属学科の専門基盤教科と学際分野（医療・福祉分野、環境・エネルギー分野、新機能材料分野のいずれか）を選択して学際科目を受講することになります。

●ミニ研究 2年生

2年生からは専門学科の学級編成になりますが、全教員が2年生全員を2～3名毎に分け、各々の研究課題を指導するミニ研究を行います。

●混合学級 1年生

1年生は学科の枠をこえた「混合学級」編成として、全学生が専門5学科と実習工場などの実験・実習を全て体験します。



(1年 工学基礎実験)



(2年 ミニ研究)

● 機関別認証評価

学校教育法の改正により、平成16年度から7年以内ごとに、大学（短期大学を含む）及び高等専門学校は、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による機関別認証評価を受けることが法的に義務付けられました。

国立高等専門学校機構は、文部科学大臣の認証を受けている評価機関である独立行政法人大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を受審することとしており、本校においては、平成17年度に第1回目の機関別認証評価を受審し、「高等専門学校評価基準を満たしている」と評価されています。

この度、平成23年度に第2回目の機関別認証評価を受審し、その評価結果が平成24年3月29日(木)に大学評価・学位授与機構から公表されました。

評価結果は以下のとおりです。

〈高等専門学校機関別認証評価結果〉

（沼津工業高等専門学校）

沼津工業高等専門学校は、高等専門学校設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める高等専門学校評価基準を満たしている。



COLLEGE OF TECHNOLOGY
ACCREDITED
Mar.2012



● JABEE

JABEEとは Japan Accreditation Board for Engineering Education の頭文字をとったものであり、日本技術者教育認定機構のことです。

同機構は技術系学協会と密接に連携しながら技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体で、大学などの高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを公平に評価し、認定する事業を行っています。

本校では、本科4年生から専攻科2年生までの4年間について、単一の技術者教育プログラムである「総合システム工学プログラム」を構成しており、2004年から日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けています。

本校の技術者教育が4年制大学の教育レベルと同等であることが保証されるとともに、プログラム修了生は、国際的に通用する基本的な学力・技術力を有する者として、社会で受け入れられることとなります。具体的には修習技術者と称することができ、技術者としての重要な国家資格である技術士の第一次試験が免除されます。



日本技術者教育認定機構 認定校



沼津工業高等専門学校 専攻科
総合システム工学プログラム



教養科 (各学科共通科目)

LIBERAL ARTS

● 教養科

沼津高専には5つの学科がありますが、どの学科に属する学生でも共通で学ぶ科目があります。これらを一般科目といいます。

一般科目には大きく分けて2つの目的があります。ひとつは所属する学科の科目(専門科目)を学ぶための基礎学力を身につけること、もうひとつは健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を養うことです。

教育内容は、高等学校及び大学の教養課程において教えられるほとんどの教科を含んでいます。

一般科目を主に担当している教員の組織が教養科です。高度な専門知識に裏付けられた確かな教育を低学年から展開することによって、沼津高専では、広範な知識・技術そして的確な判断力・行動力を持ち、豊かな個性と社会性を兼ね備えた技術者を養成しています。

● 教 員

職名	学位	氏名	主要な担当教科目(専門分野)
教授	博士(理学)	待田 芳徳	数学・応用数学(幾何学・微分方程式・数理物理)
教授	博士(理学)	勝山 智男	物理・応用物理(統計物理学・生物物理学)
教授	文学修士	大久保清美	ドイツ語(ドイツ地域文化研究)
教授	工学修士	西垣 誠一	数学・応用数学(実関数論)
教授	理学修士	遠藤 良樹	数学・応用数学(幾何学的測度論)
教授	体育学修士	佐藤 誠	保健体育(スポーツ運動学・体操競技)
教授	教育学修士	塩谷 三徳	英語(英語教授法)
教授	博士(工学)	小林 美学	化学・結晶化学(無機化学)
教授	修士(文学)	鈴木 久博	英語(ユダヤ系アメリカ文学)
教授	博士(理学)	住吉 光介	物理・応用物理(宇宙物理学・原子核物理学)
准教授		中園 孝信	国語・文学特論(近代文学)
准教授	博士(学術)	大石加奈子	国語・文学特論(テキスト分析・コミュニケーション科学)
准教授		渡邊志保美	保健体育(運動生理学・体育実技)
准教授	修士(理学)	佐藤 志保	数学(微分幾何学)
准教授	修士(文学)	佐藤 崇徳	地理・社会と文化・日本事情(地理学)
准教授	博士(理学)	駒 佳明	物理・応用物理・現代物理学(素粒子物理学)
准教授	修士(文学)	平田陽一郎	歴史・社会と文化・日本事情(中国史)
准教授	博士(理学)	鈴木 正樹	数学・応用数学(微分方程式論・可積分系)
講師		福木 洋一	(寮監)
講師	修士(教育学)	村上 真理	英語(英語教育法)
講師	修士(文学)	藤井 数馬	英語(認知言語学・英語教育)
講師	博士(理学)	松澤 寛	数学・応用数学(非線形偏微分方程式論)
講師	博士(理学)	澤井 洋	数学(幾何学)
助教	修士(文学)	小柳 敦史	哲学・経済学(近代ドイツ宗教思想史)



数学の授業



化学の授業



哲学の授業



● 機械工学科

機械工学科は、機械や装置ならびにこれらに関連するシステムを設計・製造する能力をもった“機械技術者”を養成することを目標としています。

低学年での機械工作実習により製品を作り出す“ものづくり”の基本となる金属加工技術を学び、また全学年にわたる機械設計製図によってアイデアを現実のものにするための設計・製図技術を修得します。機械技術者にとって必須の材料力学、熱力学、水力学などの力学を中心とした専門科目は、低学年での工学基礎科目との密接な連携の上に授業が行われています。これらの専門科目については、機械工学実験による実技と経験を通じて、その内容を深く理解できるものとしてあります。

また、情報処理技術・コンピュータ技術についても、専門科目と連携させて学びます。第5学年で行われる卒業研究では、知識や技術の活用だけでなく、さまざまな工学問題を解決するために必要となる総合的な能力を養っています。



機械工作実習（数値制御工作機械の実習）



機械工学実験（有限要素解析演習）



機械工学実験（渦巻ポンプの性能試験）

● 教 員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(■専門分野)
教 授	博士(工学)	西田 友久	材料力学・トライボロジー・機械設計製図(材料力学)
教 授	博士(工学) 技術士(機械部門)	小林 隆志	弾性力学・数値解析・機械工作法(計算力学)
教 授	工学博士	村松 久巳	情報工学・振動工学(流体工学・音響工学)
特任教授	工学博士	手塚 重久	水力学・機械設計法(流体力学)
准教授		宮内 太積	機械設計製図・工業力学(機械力学)
准教授	工学修士	井上 聡	金属材料学・機械設計製図(合金設計)
准教授	博士(工学)	三谷祐一朗	プログラム演習・自動制御(制御工学)
准教授	博士(工学)	新富 雅仁	伝熱工学・熱力学・機械設計製図(燃焼工学)
准教授	修士(工学) 技術士(機械部門)	山中 仁	機構学・機械設計製図(設計工学・機構学)
講 師	修士(工学)	永禮 哲生	機械工作法・機械設計製図・機械工学実験(切削工学)
助 教	博士(工学)	松田 伸也	機械設計製図・機械工学実験(材料力学・破壊力学)



機械設計製図（ジャッキの製作）



●電気電子工学科

地球環境に配慮したクリーンエネルギーの確保やCO₂を削減するための新技術、クラウドコンピューティングによる情報ネットワーク社会の構築には、電気電子工学の知識と技術が必須です。電気電子工学科では、幅広い産業分野において電気電子工学の知識と技能を活かした、問題解決能力を持つ、若く優れた技術者の養成に努めています。特に、近年の高度化した技術に対応できるように、時代に即した授業カリキュラムを構築し、講義による理論の修得と実験による技能の体得がスムーズに行われるように配慮しています。

電気電子工学の根幹をなす、回路理論や電磁気学などの基礎科目は、低学年から卒業まで学年に応じた内容でステップアップすることにより、理論と応用力を修得する構成となっています。高学年では先端技術に関するテーマを選択科目として開講し、技術者としての素養を涵養できるよう工夫しています。

もう一つの特徴として、講義と連動した実験テーマの充実を図っています。電気回路理論、電磁気現象を確認する基礎実験はもとより、コンピュータを利用した情報処理系の実験も実施します。特に電気系技術者に必要とされる、電子回路の設計技術と解析技術の修得に向け、回路シミュレータを用いた実験も実施します。また、本学科は高電圧関連の実験設備も充実しており、電気主任技術者（電験）認定校です。在学中に所定の課程を修めて卒業すれば、実務経験を経て第二種電気主任技術者資格が得られます。



2年工学実験（スピーカの製作）



4年工学実験（電子回路の製作）

●教 員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(■専門分野)
教授	工学修士	江間 敏	電力工学・パワーエレクトロニクス・電磁気学Ⅰ(電力工学)
教授	博士(工学)	佐藤 憲史	通信工学・マイクロ波工学・電磁気学Ⅱ・工業英語Ⅰ(光エレクトロニクス)
教授	博士(工学)	望月 孔二	電子回路Ⅱ・電気電子材料・CAD&回路シミュレーション演習(電子回路)
教授	博士(工学)	高野 明夫	制御工学・電気電子機器・工業英語Ⅱ(パワーエレクトロニクス、電動機制御)
准教授	博士(工学)	野毛 悟	直流回路・回路理論Ⅰ(超音波エレクトロニクス・電子材料)
准教授	博士(工学)	西村 賢治	エネルギー変換工学・回路理論Ⅱ(プラズマ工学)
准教授	博士(工学)	嶋 直樹	電磁気学Ⅲ・プログラミング・電子回路設計(電波物理)
講師	修士(工学)	眞鍋 保彦	ロジック回路・デジタル信号処理・回路理論Ⅲ(ウェブ情報システム)
講師	博士(工学)	大澤 友克	固体電子工学・電気電子計測(固体物理学)
助教	博士(工学)	高矢 昌紀	電子回路Ⅰ・コンピュータ工学(色彩画像工学)
助教	博士(工学)	山之内 亘	自動制御・工業英語Ⅱ(モーションコントロール)



卒業研究（高速デジタル信号の評価）



卒業研究（クリーンブースと薄膜作製装置）

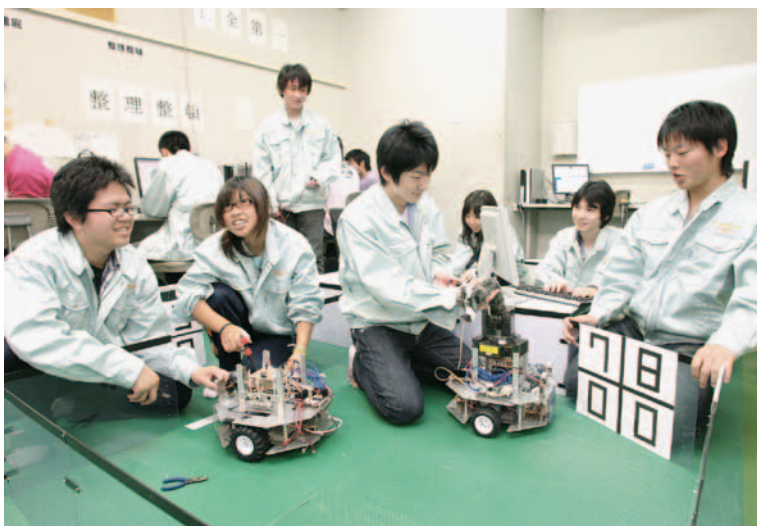
● 電子制御工学科

私たちの日常は、さまざまな電子制御技術によって支えられています。例えば自動車、携帯電話、医療機器、これらの用途は全く異なりますが「ハードウェアをコンピュータ制御する」という点で共通しています。

電子制御工学科は、多様な分野に活用できる専門知識と統合技術を備えたエンジニアの養成を目的としています。本学科では、電気電子工学、制御工学、情報工学、機械工学などの分野について基礎から応用までバランスよく学べることが特徴です。また、あらゆる技術の源となる数学、物理学、英語の学習指導にも力を注いでいます。

低学年時は、LEGOブロックによるロボット開発、各種プログラミング演習、電子回路の設計、工場実習などをとおして、制御に必要な要素技術を身につけます。4年次には、自律型移動ロボットの製作にチームで取り組み、要素技術を適切に統合する力とアイデアを実現する創造性に磨きをかけます。5年次の卒業研究では、自ら工学的問題を見つけ、培った知識と技術を応用してその解決に挑みます。

本学科の卒業生は、電気・電子系、機械系、情報系など幅広い産業分野で活躍しています。一方で、大学進学はもとより、一層深い専門知識を修得するために沼津高専専攻科への進学を選択し、指導教員のもとでさらに2年間の研究に励み、世界に発信できる研究成果を多数上げています。



電子機械設計製作(自律型移動ロボットの開発)



4年工学実験 (Qメータによる回路素子および誘電損失の測定)



電子機械基礎実習 (LEGOロボットによる競技会)

● 教 員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(■専門分野)
教授	工学修士	長澤 正氏	計算機工学・線形回路解析・通信工学(通信工学)
教授	博士(理学)	牛丸 真司	システム制御工学・組み込みソフトウェア(組み込みシステム)
教授	工学修士	川上 誠	電気回路・電子回路・ロボット工学演習(画像処理・電子回路)
教授	博士(工学)	遠山 和之	電磁気学・電子材料(誘電・絶縁材料)
教授	博士(工学)	鄭 萬溶	工学数理・工業英語・Java・品質工学(振動工学・信号処理)
特任教授	工学博士	舟田 敏雄	工学数理・計算流体力学(数理工学)
准教授	博士(工学)	大庭 勝久	工業熱力学・工業力学(流体工学)
講師	博士(工学)	江上 親宏	制御工学・工学数理演習・UNIX入門(関数微分方程式)
講師	博士(情報科学)	出川 智啓	C言語基礎演習・工業英語・工業熱力学(数値流体力学・高性能数値計算)
助教	博士(工学)	大沼 巧	回路理論・電子制御工学実験(電動機制御)
助教	修士(工学)	青木 悠祐	計算機基礎・電気機械製図・電子機械設計製作(ロボット工学・生体工学)



卒業研究 (医療診断支援システムの開発)



● 制御情報工学科

制御情報工学科は、コンピュータを応用した複合機器やシステムの設計、製造、運用等の分野で社会に貢献できる実践的技術者の養成を目的としています。

カリキュラムは、情報工学とシステム・制御工学を重視し、機械工学及び電気・電子工学の関係分野を含んで体系的に編成されています。1～3年次では、C/C++言語の修得を目的としたプログラミング演習とマイコン制御ロボットの開発を目的としたメカトロニクス演習に多くの時間を充て、コンピュータに関する様々な知識や技術を修得します。4年次の創造設計では、コンピュータを応用したシステムの開発を学生達が自らの力で行い、企画から設計・製作、そして検証・考察・成果発表に至るまでの一連のプロセスを体験します。

また高学年では、計測制御、メカトロニクス、コンピュータシミュレーション等の工学実験を各実験室において少人数で体験します。5年間一貫教育の総括としての卒業研究では、教員の個別指導のもとに、具体的な問題の発見と解決を通して自己学習力と創造力を育成します。本学科の卒業生は、情報通信、自動車、ロボット、家電、医療機器等、幅広い産業分野で活躍しています。



PBL（問題解決型授業）形式の創造設計



メカトロニクス演習（マイコン制御の学習）



卒業研究（ロボットハンドの開発）

● 教 員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(■専門分野)
教授	工学博士	大島 茂	設計工学・機械電気製図(水圧・油圧工学)
教授	工学修士 技術士(機械部門)	吉野龍太郎	ロボット工学・自動制御(ロボット工学)
教授	工学博士	長谷 賢治	制御工学・システム工学(制御工学)
教授	博士(情報工学)	藤尾三紀夫	図形処理・情報処理(CG・CAD/CAM)
教授	博士(工学)	芹澤 弘秀	電気回路・電磁気学(電磁波工学)
准教授	博士(工学)	宮下 真信	電子計算機・人工知能(数理神経科学)
准教授	博士(情報科学)	鈴木 康人	ソフトウェア設計・離散数学(情報論理)
講師	博士(工学)	大久保進也	電子回路・計測工学(光情報工学)
助教	博士(工学)	山崎 悟史	オペレーティングシステム・データベース(通信工学)
助教	博士(工学)	松本 祐子	流体力学・数値解析(数値流体力学)



オブジェクト指向言語C++のプログラミング演習

●物質工学科

物質は原子の集合であり、無生物と生物に分類できます。物質工学とは人類に役立つ物質を発見したり新規に作り出すことによって活用する学問ということになります。

本学科では創造性の開発、自発的態度の育成及び実践的科学技术の習得を目的としています。この目的に沿って物質の組成、構造及び変化について基礎的理解を深め、化学的又は生物化学的に物質を創製することのできる科学技術者の育成を目標にカリキュラムを編成しています。分析化学、微生物学、無機化学、有機化学、生物化学、物理化学及び化学工学の順に講義と実験によって物質工学の基礎を学び、さらに4年から「材料化学」と「生物工学」の2コースに別れてそれぞれに必要な工学技術を学びます。

「材料化学」のコースでは無機材料や高分子・有機材料の創製、物性及び分析など、「生物工学」のコースでは分子生物学、酵素、細胞及び遺伝子などを中心に学びます。

世界に発信できるコミュニケーション能力開発にも傾注し、一般英語だけではなく4・5年生で専門教員による科学英語を学習し専門英語の習得も目指します。総仕上げとして5年次に卒業研究を行います。以上により世界の化学工業、医薬品工業及び食品工業に関わる機関の研究開発部門や生産現場で活躍できる人材の養成を目指しています。



卒業研究（核磁気共鳴測定）



卒業研究（X線回折測定）

●教 員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(■専門分野)
教授	工学博士	山田 祐一郎	化学工学Ⅱ・安全工学・環境工学・科学英語Ⅱ・材料化学実験Ⅱ(化学工学・電子材料工学)
教授	博士(工学)	押川 達夫	有機化学Ⅰ,ⅡⅢ・工学基礎Ⅰ・有機化学実験(有機合成化学・有機材料化学・グリーンケミストリー)
教授	博士(工学)	蓮實 文彦	微生物学・生物化学Ⅱ・培養工学・微生物学実験(応用微生物学・酵素化学)
教授	薬学博士	芳野 恭士	分子生物学・細胞工学・科学英語Ⅰ・生物工学実験Ⅰ(生物化学・生物系薬学)
教授	博士(薬学)	後藤 孝信	物質工学入門・生物化学Ⅰ・酵素工学・生物化学実験(水産化学)
准教授	博士(工学)	稲津 晃司	物理化学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ・物理化学実験(触媒化学・環境化学)
准教授	博士(理学)	大川 政志	無機化学Ⅰ,Ⅱ・機器分析Ⅰ・物質工学演習Ⅰ・無機化学実験(無機化学)
准教授	博士(工学)	竹口 昌之	基礎化学工学・化学工学Ⅰ,Ⅱ・反応工学・化学工学実験(生物化学工学・微生物工学)
講師	博士(農学)	古川 一実	生物化学Ⅰ・遺伝子工学・工学基礎Ⅱ・生物工学実験Ⅱ(植物遺伝育種学)
講師	博士(工学)	藁科 知之	分析化学・機器分析Ⅰ・科学英語Ⅰ・物質工学演習Ⅱ・分析化学実験(分析化学)
助教	博士(学術)	山根 説子	材料科学概論・有機化学Ⅰ・高分子科学・材料化学実験Ⅰ(生体材料工学)



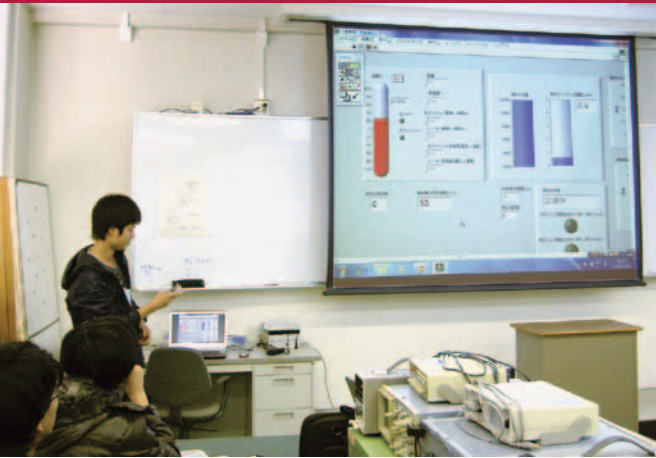
生物工学実験（酵素反応の実験）



化学工学実験（精留塔の実験）

専攻科

Advanced Engineering Course



専攻科複合実験

● 専攻科

専攻科は、高等専門学校における成果と伝統を踏まえ、研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い、もって地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的として設置されました。本校の専攻科には、以下の三つの専攻があります。

- 機械・電気システム工学専攻
- 制御・情報システム工学専攻
- 応用物質工学専攻

これらの3専攻は、高専4・5学年次とともに単一の技術者教育プログラムである「総合システム工学」を構成しています。

● 専攻科の目的を実現するために、専攻科生が以下の能力及び姿勢を身につけることを目標としています。

- 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
- 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
- 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
- コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力
- 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢

● 各専攻の目的

- 機械・電気システム工学専攻 機械工学、電気電子工学を中心に深く学修し、さらに制御工学、コンピュータ工学、材料工学、および生物工学の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成される能力を身につけた技術者を育成する。
- 制御・情報システム工学専攻 制御工学、コンピュータ工学を中心に深く学修し、さらに機械工学、電気電子工学、材料工学、および生物工学等の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成される能力を身につけた技術者を育成する。
- 応用物質工学専攻 材料工学、生物工学を中心に深く学修し、さらに機械工学、電気電子工学、制御工学、およびコンピュータ工学等の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成される能力を身につけた技術者を育成する。

● 専攻科は、以下の要件を満たす人を受け入れます。

- 1 広い視野と深い専門性を身に付けた技術者として、将来、社会の発展及び公衆の福祉に寄与する意欲を持った者
- 2 数学、自然科学及び英語に関し、工学教育を受けるために必要な学力を有する者
- 3 基礎的な工学の方法について、一定の指導と訓練を受け、一定の期間にわたって実践した経験を有する者

● 専攻科概要

1950年代後半～60年代初頭、欧米に「追いつけ、追い越せ」というのは日本の工業にとっての課題でした。欧米に「手本」があって、日本の技術者はその「手本」に沿って「ものづくり」に邁進することが求められた時代です。高専が誕生したのはその頃です。従って、高専では「効率的なものづくり」を実現するため、早期専門教育を中心とした即応的なものづくり教育が行われてきました。高専教育が日本の高度経済成長を支え、国民生活向上の一端を担ったことは、産業界からも高く評価されています。

1980年代後半～90年代初頭、日本の工業にとっての課題は「世界をリードする技術の創造」へと変わってきました。「手本」なき技術革新の時代が始まりました。こうした変化の過程で、高専教育も「即応的なものづくり教育」から「基礎学力に立脚した総合的な技術教育」へと、社会からの要求の変化への対応を迫られることになりました。勿論、こうした幅広い対応は、既存の5年制教育で行うのではなく、2年間の教育課程を付加して、7年間の教育課程を構築して行うものです。このようにして、高専に専攻科が設置されました。



応用物質工学専攻科研究

● 定員及び現員

平成24年4月1日現在

■学科	■定員	■現員					■合計
		1年	2年	3年	4年	5年	
機械工学科	40	44(4)	37(2)	45(3)	32(2)	39(2)	197(13)
電気電子工学科	40	42(6)	42(4)	44(3)	41(3)	40(1)	209(17)
電子制御工学科	40	44(5)	41(4)	41(2)	46(4)	40(3)	212(18)
制御情報工学科	40	42(10)	41(7)	46(4)	45(2)	38(4)	212(27)
物質工学科	40	44(13)	44(17)	43(12)	49(16)	38(16)	218(74)
計	200	216(38)	205(34)	219(24)	213(27)	195(26)	1,048(149)

() 内は女子で内数

平成24年4月1日現在

■専攻科	■定員	■現員		■合計
		1年	2年	
機械・電気システム工学専攻	8	11(1)	13(0)	24(1)
制御・情報システム工学専攻	8	9(0)	11(1)	20(1)
応用物質工学専攻	4	5(4)	3(1)	8(5)
計	20	25(5)	27(2)	52(7)

() 内は女子で内数

● 入学志願者状況

平成24年4月1日現在

■学科	■平成23年度				■平成24年度			
	募集人員	志願者	入学者	倍率	募集人員	志願者	入学者	倍率
機械工学科	40(20)	56(19)	41(20)	1.4(1.0)	40(20)	79(31)	42(20)	2.0(1.6)
電気電子工学科	40(20)	54(20)	41(20)	1.4(1.0)	40(20)	50(24)	42(20)	1.3(1.2)
電子制御工学科	40(20)	53(20)	42(20)	1.3(1.0)	40(20)	66(27)	42(20)	1.7(1.4)
制御情報工学科	40(20)	60(25)	42(20)	1.5(1.3)	40(20)	105(52)	42(20)	2.6(2.6)
物質工学科	40(20)	75(42)	42(20)	1.9(2.1)	40(20)	90(61)	44(20)	2.3(3.1)
計	200(100)	298(126)	208(100)	1.5(1.3)	200(100)	390(195)	212(100)	2.0(2.0)

() 内は推薦選抜による内数

平成24年4月1日現在

■専攻科	■平成23年度			■平成24年度		
	募集人員	志願者	入学者	志願者	入学者	
機械・電気システム工学専攻	8	31	13	25	9	
制御・情報システム工学専攻	8	27	13	42	8	
応用物質工学専攻	4	4	3	12	5	
計	20	62	29	79	22	

● 外国人留学生

平成24年4月1日現在

■学科	■機械			■電気電子			■電子制御			■制御情報			■物質			■合計
	3	4	5	3	4	5	3	4	5	3	4	5	3	4	5	
インドネシア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
マレーシア	1	1	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	7
モンゴル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	2
ラオス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
計	1	1	-	1	2	1	-	-	-	1	1	-	-	2	1	11

● 出身地別学生数

平成24年4月1日現在

■出身地	■学生数
静岡県	958
神奈川県	67
山梨県	3
岩手県	1
新潟県	1
埼玉県	1
東京都	1
愛知県	1
和歌山県	1
広島県	1
福岡県	2
モンゴル	2
マレーシア	7
インドネシア	1
ラオス	1
計	1,048

専攻科は除く

● 静岡県内都市別学生数

平成24年4月1日現在

■東部地区		■中部地区		■西部地区	
■出身地	■学生数	■出身地	■学生数	■出身地	■学生数
沼津市	158	静岡市	77	浜松市	92
富士市	132	島田市	11	磐田市	21
三島市	72	焼津市	26	周智郡	2
御殿場市	49	藤枝市	15	袋井市	2
駿東郡	80	掛川市	13	湖西市	4
富士宮市	42	榛原郡	5		
裾野市	32	牧之原市	4		
伊豆の国市	22	菊川市	1		
伊東市	25	御前崎市	3		
伊豆市	20				
田方郡	13				
熱海市	16				
賀茂郡	9				
下田市	12				
計	682	計	155	計	121

専攻科は除く

専攻科は除く

専攻科は除く

学生寮・尚友会館（福利施設）

Student Dormitory / Welfare Facility, "Shoyu-kaikan"

● 学生寮

本校は、学生の人間形成を助け、かつ学生の修学に便宜を供与し、教育目標達成に資するため、低学年全寮制を実施しているため、原則として1・2年生は全員入寮することになります。

また、3年生以上の学生の希望者は、選考を経て主に指導寮生として入寮できます。

寮生の指導には、寮監及び寮務担当教員と寮務係の職員と共に、全教員が輪番で宿直として当たり、寮生は常時、指導と助言が受けられます。

寮は学校敷地の北東に位置し、北寮ゾーンと南寮ゾーンになっており、全部で7棟あります。上級生寮の翔峰寮は全室が個室であり、他の6棟については、1人部屋及び2人部屋となっています。

北寮ゾーンは、翔峰寮・栄峰寮・光峰寮、南寮ゾーンは、明峰寮(女子寮)・優峰寮・清峰寮・秀峰寮となっています。寮には寮生が組織する寮生会があり、寮長・副寮長・棟長等指導寮生を中心に、毎日の学習はもとより、規律正しい有意義な共同生活を送ること、年間行事を楽しく盛り上げることを目指して、日々の寮生活が営まれています。例えば新入生歓迎親睦会・夏祭り・クリスマスパーティー等の他に、地域住民との交流の一貫として、共に楽しむ寮祭の実施や地域主催の清掃等へ参加しています。



談話室風景

● 学生寮現員

平成24年5月1日現在

寮名	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	合計	備考
清峰寮	58	24	12	2	1	0	97	
秀峰寮	34	18	6	0	0	0	58	
優峰寮	1	20	10	8	10	0	49	
栄峰寮	42	25	22	10	4	0	103	
光峰寮	40	24	12	3	1	0	80	
翔峰寮	2	19	33	37	14	0	105	
明峰寮	38	22	8	6	2	0	76	女子寮
計	215	152	103	66	32	0	568	(留学生11名を含む)

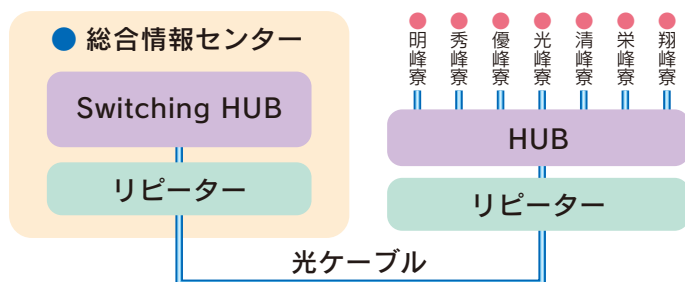


居室風景

● 学生寮情報処理ネットワーク

総合情報センターと各寮を通信回線で結び、各寮ごとにパーソナルコンピュータを設置しています。寮生は寮内で常時コンピュータを自由に使用でき、情報処理教育の向上に役立っています。

● 学生寮情報処理ネットワーク図



マテカ (寮生会主催の勉強会)



食堂風景

● 尚友会館

学生の福利厚生施設で、学生食堂・売店・理容室があります。ロビーには自動販売機が置かれ、休憩時間等には学生でにぎわっています。



学生食堂



売店



理容室

● 図書館

図書館は、学校全体の学習センターとしての役割を果たしています。ここでは、教育及び研究に必要な情報資料を中心に、授業に欠かせない参考図書、豊かな情操を養うための教養書、美術書等が開架書架に並べられています。また、学術専門雑誌及び一般雑誌のほか、新聞も自由に閲覧できるようになっています。

情報化時代に即応して、図書館業務システムを導入し、貸出・返却業務の電算化はもとより、パソコンによる図書検索、蔵書の管理を行っています。パソコンコーナーも設置し、電子情報も閲覧できるようになっています。

● 閲覧貸出法：開架式 ● 閲覧定員：100座席 ● 検索用端末：8台（内、蔵書検索用2台）



パソコンコーナーも設置した図書館閲覧室

● 蔵書

平成24年3月31日現在

■区分	■総記	■哲学	■歴史	■社会科学	■自然科学	■技術	■産業	■芸術	■言語	■文学	■合計
● 図書の冊数											
和漢書	4,791	2,499	5,083	4,220	15,832	17,544	438	2,227	3,182	7,235	63,051
洋書	492	424	345	271	9,998	3,275	10	168	1,571	727	17,281
計	5,283	2,923	5,428	4,491	25,830	20,819	448	2,395	4,753	7,962	80,332
割合(%)	6.6	3.6	6.8	5.6	32.2	25.9	0.5	3.0	5.9	9.9	100

● 総合情報センター

総合情報センターは本校の情報処理教育と情報システムに関わる様々な業務を行っています。専任の教員、技術職員を各1名と高い情報技術を持つ数名の教職員によって運営されています。

- 教育用計算機システムの設計・管理運用
- 学内情報基盤の設計・管理運用
- 学内情報資源の有効活用に関わる企画・技術支援
- 情報リテラシー教育・情報処理教育

施設として、それぞれ50台と23台のPCを配置した2つの情報処理演習室があります。PCをはじめとする教育用コンピュータシステムは定期的に更新が行われ、ストレスのないハードウェア環境と、教育・研究に必要なソフトウェア環境が整備されています。これらの施設・設備は、全学共通のリテラシー教育や、学科でのプログラミング演習などの授業に活用されています。また、授業だけの利用にとどまらず、情報処理教育の一環として学内プログラミングコンテストや公開講座を開催しています。この演習室は利用者に常時開放しており、レポート作成やe-Learningによる自主学習等にも自由に使うことができます。なお、図書館及び電子制御工学科棟と制御情報工学科棟の情報処理演習室でも、センター演習室と同一の利用環境が提供されています。



第1演習室における情報リテラシーの講義



第2演習室

地域共同テクノセンター・実習工場

Cooperative Research and Development Center/Machine Practice Workshop

●地域共同テクノセンター

地域共同テクノセンターは、総合技術開発能力のある学生の育成、地域産業界等との共同研究、受託研究及び受託試験の推進を通して静岡県東部の地域産業の振興に寄与することを目的として、次の業務を行っています。

●センターの主な業務

- 総合技術開発能力のある学生の育成
- 地域産業界等との共同研究、受託研究及び受託試験の推進
- 地域産業界等に対する技術相談、テクノフォーラム等の実施
- 社会人を対象としたリフレッシュ教育及び公開講座等の実施

本センターでは、これらの業務の中で、特に、地域産業界等と本校との共同研究、受託研究等のテーマについて、具体的な実験・試験・解析を、最新の設備と研究環境の中で実施できる体制に整備し、産学連携による地域貢献を一層推進することを目的としています。また、本校には、機械、電気電子、制御、情報、化学、生物化学等、多くの専門分野に精通した教員が在職していますので、企業等の方々が抱える技術的な問題点・疑問点に対して相談に応じる体制も整えています。これらの技術相談がきっかけとなり、全国高専の中でもトップクラスの数をはこる多くの共同研究、受託研究等へと展開しています。

本センターのこのような人的・物的資源を、地域産業界等の技術開発・製品開発に是非とも活用していただきたいと考えています。

●実習工場

機械実習工場は、学生に対する基本的な「ものづくり」教育の実践と教育・研究活動の支援を目的として、以下のような活動を行っています。

- 全学生への安全教育を含めた「ものづくり」教育
- 学生の自発的な創造製作の支援
(ロボコン出場ロボットの製作など)

- 卒業研究学生による実験装置等の製作支援
- 教員の研究支援(実験装置の製作など)

また、「ものづくり」技術を生かして地域との連携を図る目的で、

- 中学生対象のものづくり講座
- 地域の技術者養成への協力

工場内には、数値制御工作機械群からなる高精度・多機能加工システム、各種汎用工作機械、鋳鍛造設備、その他の加工設備が設置されています。これらの設備によって、総合的な「ものづくり」教育を実践するとともに、教育・研究のための高度な加工依頼にも応えられるものとなっています。機械実習工場は、「ものづくり」を通じて、教育・研究・地域連携の進展に寄与することを目指しています。

●教員

職名	学位	氏名
特命教授	博士(薬学)	原田 宏



共同研究での研究風景(物質工学系)



共同研究での研究風景(機械・制御工学系)

主要設備

多 高 シ 機 精 度 ・ ス テ 加 工	数値制御工作機械		シ ス テ ム C A D / C A M
	・マシニングセンタ	1台	
	・NC旋盤	1台	
	・ワイヤ放電加工機	1台	
	・レーザー加工機	1台	
汎用工作機械			
・旋盤	11台	・円筒研削盤	2台
・フライス盤	3台	・横中ぐり盤	1台
・平面研削盤	1台	・ボール盤	3台
その他設備			
・万能投影機	1台	・鋳鍛造設備	
・パワープレス	1台	・溶接設備	
・油圧プレス	1台	・手仕上げ加工設備	



フライス盤



レーザー加工機



万能投影機

●卒業生の編入学状況

※最近5年間

■大学名	■入学年度				
	平成 20	21	22	23	24
●国立					
北海道大学	1	—	1	—	3
東北大学	—	3	3	1	2
秋田大学	—	—	1	—	—
山形大学	—	—	1	—	—
福島大学	1	—	—	3	—
茨城大学	—	—	—	—	1
筑波大学	8	7	4	5	3
宇都宮大学	1	—	—	—	—
埼玉大学	1	—	—	—	—
千葉大学	6	4	1	—	2
東京大学	2	—	1	1	—
東京農工大学	5	3	1	4	5
東京工業大学	6	5	3	2	3
東京海洋大学 (東京水産大学)	1	2	1	2	1
電気通信大学	1	1	2	—	3
横浜国立大学	1	2	2	1	1
新潟大学	—	—	1	2	—
長岡技術科学大学	3	1	3	7	5
金沢大学	2	2	1	2	2
福井大学	2	—	—	—	3
山梨大学	—	1	—	—	—
信州大学	2	—	—	—	4
静岡大学	6	7	2	4	3
名古屋大学	3	—	5	2	4
名古屋工業大学	—	—	2	2	—
豊橋技術科学大学	16	7	22	17	16
三重大学	3	1	—	3	—
京都工芸繊維大学	—	2	1	1	2
大阪大学	1	—	1	1	1
神戸大学	—	1	—	—	—
奈良女子大学	—	—	—	—	1
岡山大学	—	—	1	—	—
広島大学	1	—	1	2	3
徳島大学	—	—	—	1	—
香川大学	—	1	—	—	—
高知大学	—	—	—	—	3
九州大学	—	—	2	—	—
九州工業大学	—	—	—	—	1
長崎大学	1	—	—	—	—
大分大学	—	—	—	1	1
鹿児島大学	—	2	—	—	—
琉球大学	—	—	2	—	—
●公立					
首都大学東京 (東京都市大学)	1	3	3	—	2
静岡県立大学	1	1	—	1	—
石川県立大学	—	—	1	—	—
大阪府立大学	—	1	—	—	1
●私立					
神奈川大学	—	—	1	—	—
上智大学	1	—	—	—	—
共立女子大学	—	1	—	—	—
東京理科大学	—	1	—	—	—
東京電機大学	—	—	—	1	—
東京工芸大学	—	—	—	1	—
東京国際大学	—	—	—	—	1
中部大学	—	—	1	—	—
立命館大学	2	—	2	1	—
関西大学	1	—	—	—	—
合計	80	59	73	68	77

●平成23年度卒業生の進路状況

■区分	M	E	D	S	C	■合計
卒業生数	34	37	40	37	43	191
就職者数	22	18	17	17	15	89
編入学者数	9	13	13	19	23	77
専攻科入学者数	2	6	9	—	5	22
その他	1	—	1	1	—	3
求人会社数	361	437	262	250	164	1,474
●就職者内訳						
産業別						
建設	—	2	—	—	—	2
食品	2	2	2	3	4	13
繊維	—	1	—	—	—	1
化学	3	5	—	—	11	19
鉄鋼	2	—	—	—	—	2
非鉄金属	—	1	—	—	—	1
金属製品	1	—	—	—	—	1
一般機械器具	1	1	11	9	—	22
電気機械器具	2	3	—	2	—	7
輸送機械器具	3	—	—	1	—	4
精密機械器具	3	—	—	—	—	3
その他製造	3	—	—	—	—	3
電気・ガス	1	2	—	—	—	3
運輸・通信	1	1	2	—	—	4
卸売・小売	—	—	—	—	—	—
サービス業	—	—	1	—	—	1
上記・その他	—	—	1	2	—	3
地区別						
京浜地区	15	9	3	7	4	38
静岡県内	4	4	11	9	10	38
京阪神地区	1	—	2	—	1	4
その他	2	5	1	1	—	9

M: 機械工学科 E: 電気電子工学科 D: 電子制御工学科 S: 制御情報工学科 C: 物質工学科

●平成23年度卒業生就職先一覧

機械工学科

JX日鉱日石エネルギー株式会社 / Meiji Seika ファルマ株式会社 / 旭化成株式会社
アステラス ファーマ テック株式会社 / 出光興産株式会社 / 株式会社アドバンテスト
株式会社電業社機械製作所 / 株式会社明電舎 / 株式会社ヤクルト本社 / 株式会社リコー
関東自動車工業株式会社 / 山九株式会社 / サントリープロダクツ株式会社
シチズンセイミツ株式会社 / 新日本製鐵株式会社 / 住金精鋼株式会社 / 中部電力株式会社
東芝エレベータ株式会社 / 東芝機械株式会社 / 東プレ株式会社 / 本田技研工業株式会社
マルスン株式会社

電気電子工学科

旭化成グループ / アステラス ファーマ テック株式会社 / 株式会社ツムラ
株式会社日立アイーシステム / 株式会社日立ビルシステム / 株式会社ヤクルト本社富士裾野工場
株式会社リコー / 第一三共プロファーマ株式会社 / 田中貴金属グループ / 中部電力株式会社
東海旅客鉄道株式会社 / 東レ株式会社 / 富士乳業株式会社 / 三菱重工業株式会社 原動機事業本部
横浜製作所 / 明陽電機株式会社 / Suvany Keosounthone Korsang (スワンニーケオスントオンコーサーン)

電子制御工学科

朝日電装株式会社 / ウシオ電機株式会社 / オムロン株式会社 / 株式会社エヌ・ティ・ティ・ネオメイト
株式会社東京保機エンジニアリング / 株式会社リコー / コンティンタル・オートモーティブ株式会社
先生精機株式会社 / 東海旅客鉄道株式会社 / 東芝機械株式会社 / 東芝キャリア株式会社
東芝ホームアプライアンス株式会社 / 日星電気株式会社 / ネスレ日本株式会社
三菱電機ビルテクノサービス株式会社 / 森永乳業株式会社富士工場 / 海上自衛隊技術海曹

制御情報工学科

CTCテクノロジーズ株式会社 / 株式会社SAVAWAY / 株式会社協和製作所 / 株式会社タマディック
株式会社テクノサイト / 株式会社日本精機研究所 / 株式会社富山製作所 / 株式会社日立製作所
日本自動ドア株式会社 / 日本たばこ産業株式会社 / 富士乳業株式会社 / メタウォーター株式会社
矢崎総業株式会社 / ヤマハモーターエンジニアリング株式会社 / 和栄工業株式会社 / 富士市役所
松崎町役場

物質工学科

旭化成株式会社 / アステラス ファーマ テック株式会社 / イハラニッケイ化学工業株式会社
オリンバステルモバイオマテリアル株式会社 / 花王株式会社 / 株式会社meiji / 株式会社ツムラ
ジェイカムアグリ株式会社 / 中外製薬工業株式会社 / 東海プラント分析センター株式会社
東燃ゼネラル石油株式会社 / 富士乳業株式会社 / 三菱ガス化学株式会社 / 函南東部農業協同組合

進路（専攻科）

Courses after Graduation “Advanced Engineering Course”

●平成23年度修了生の進路状況

区分	ME	DS	CB	合計
修了生数	11	16	5	32
就職者数	7	7	3	17
大学院入学者数	4	9	2	15
その他	—	—	—	—
求人会社数	85	82	32	199
●就職者内訳				
産業別				
建設	—	—	—	—
食品	—	—	2	2
繊維	—	—	—	—
化学	1	—	1	2
鉄鋼	—	—	—	—
非鉄金属	—	—	—	—
金属製品	—	—	—	—
一般機械器具	1	2	—	3
電気機械器具	1	—	—	1
輸送機械器具	1	1	—	2
精密機械器具	2	1	—	3
その他製造	1	2	—	3
電気・ガス	—	—	—	—
運輸・通信	—	—	—	—
卸売・小売	—	—	—	—
サービス業	—	—	—	—
上記・その他	—	1	—	1
地区別				
京浜地区	5	2	1	8
静岡県内	1	2	2	5
京阪神地区	—	1	—	1
その他	1	2	—	3

ME：機械・電気システム工学専攻
 DS：制御・情報システム工学専攻
 CB：応用物質工学専攻

●修了生の進学状況

※最近5年間

大学院名	入学年度					
	平成	20	21	22	23	24
●国立						
北海道大学大学院	—	—	1	—	—	—
筑波大学大学院	1	—	1	—	—	—
東京大学大学院	—	—	—	1	—	—
東京工業大学大学院	4	—	1	3	3	5
東京農工大大学院	—	—	—	—	—	1
電気通信大学大学院	—	—	—	—	1	—
横浜国立大学大学院	—	—	1	—	1	1
静岡大学大学院	—	—	—	—	—	1
豊橋技術科学大学大学院	—	—	—	1	—	2
北陸先端科学技術大学院大学	—	—	—	1	—	—
奈良先端科学技術大学院大学	2	—	2	2	5	5
●公立						
静岡県立大学大学院	—	—	—	1	—	—
●私立						
立命館大学大学院	1	—	—	—	—	—
合計	8	6	9	10	15	—

●平成23年度修了生就職先一覧

機械・電気システム工学専攻

川崎重工業株式会社／セイコーエプソン株式会社／ソニーイーエムシーエス株式会社東海テック
 東燃ゼネラル石油株式会社／ベックマン・コールター三島株式会社
 株式会社牧野フライス製作所／メタウォーター株式会社

制御・情報システム工学専攻

株式会社アドヴィックス／三精輸送機株式会社／株式会社テクノサイト
 トヨタテクニカルディベロップメント株式会社／株式会社日立プラントテクノロジー
 株式会社日立メディコ／富士鋼業株式会社

応用物質工学専攻

キリンディスティラリー株式会社／株式会社中外医科学研究所／日本食品化工株式会社

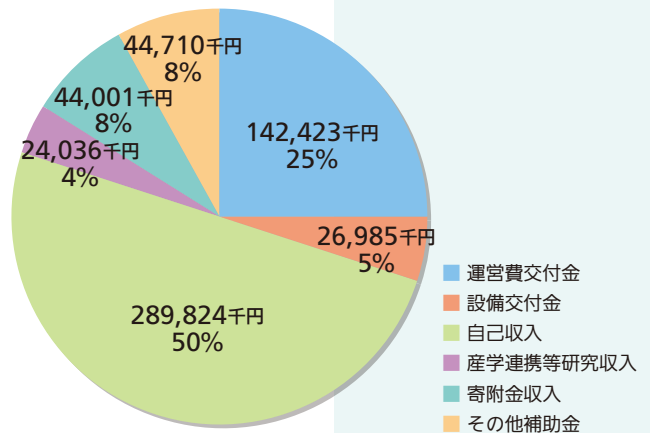


事業費概要・建物配置図

Income Expenditure / Campus Map

●平成23年度 事業費

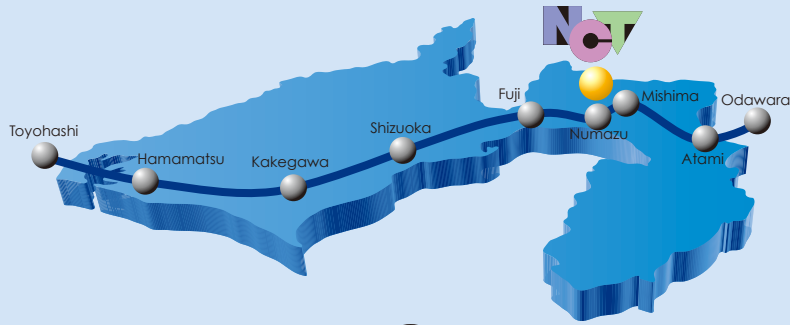
■区分	(単位：千円)
運営費交付金	142,423
設備交付金	26,985
自己収入	289,824
授業料	248,436
入学料	20,473
検定料	8,085
雑収入	12,830
産学連携等研究収入	24,036
受託研究	4,142
共同研究	15,690
受託事業	1,000
間接経費	3,204
寄附金収入	44,001
その他補助金	44,710
科学技術振興調整費	44,405
その他	305
合計	571,979



●建物配置図

■No. ■建物名称	㎡	■No. ■建物名称	㎡
1 管理棟 (共通棟、E科棟含む)	5,772	17 第1体育館	1,027
2 共通棟		18 第2体育館	880
3 専攻科棟	1,183	19 武道館	331
4 第1講義棟	1,560	20 尚友会館 (学生食堂等)	720
5 第2講義棟		21 守衛所	26
6 機械工学科・制御情報工学科棟	2,251	22 学生寮管理棟・浴室	252
7 電気電子工学科棟		23 学生寮 (優峰寮)	869
8 電子制御工学科棟	2,180	24 学生寮 (秀峰寮)	866
9 制御情報工学科実験棟	780	25 学生寮 (清峰寮)	1,380
10 物質工学科棟 (第2講義棟含む)	2,337	26 学生寮 (明峰寮)	1,315
11 物質工学科生物工学実験棟	514	27 学生寮 (光峰寮)	1,276
12 第1実習工場	759	28 学生寮 (栄峰寮)	1,754
13 第2実習工場	603	29 学生寮 (翔峰寮)	1,752
14 図書館 (総合情報センター含む)	2,089	30 学生寮食堂 (合宿施設含む)	862
15 総合情報センター		31 合宿施設	
16 地域共同テクノセンター	415		





交通案内

- JR三島駅北口よりタクシーにて約10分
- JR三島駅南口より富士急シティバス、沼津高専行乗車
- JR沼津駅南口より富士急シティバス、沼津高専行乗車
- JR下土狩駅下車⇒徒歩約20分
- 東名高速道路沼津インターチェンジより車で約5分
- 新東名高速道路長泉沼津インターチェンジより車で約5分



2012
高専制度創設50周年
『進化する高専』



(愛称: ココくん)

高専は、高専制度創設50周年にあたり、「進化する高専」を標榜し、科学技術創造立国を担う感性と創造性が豊かな実践的技術者の育成を通して、地域社会と国際社会の発展に貢献します。

2012 沼津高専 概要

編集発行
●2012年6月 ●独立行政法人国立高等専門学校機構 沼津工業高等専門学校
〒410-8501 沼津市大岡3600
TEL 055 (921) 2700 FAX 055 (926) 5700